



MAINICHI

新毎日

夕刊

6月6日(土)

2020年(令和2年)

発行所：北九州市小倉北区紺屋町13-1

〒802-8651 電話(093)541-3131

毎日新聞 西部本社

福岡市中央区天神1 毎日福岡会館〒810-8551

編集3100 事業3636

電話(092)781- 販売3221 営業3300

毎日新聞 福岡本部

微量精子で顕微授精

セントマザー医院凍結法開発

男性不妊の治療で、精液から採取した3個以下のわずかな精子を傷つけずに採取、凍結し、顕微授精で14人の子どもが生まれたと、セントマザー産婦人科医院(北九州市)の田中温院長らの研究チームが欧州産科婦人科学会誌で発表した。精液中に十分な精子がない「無精子症」と診断された男性は精巣を切開して精子を取り出すことが多

い。今回の手法は、体への負担の少ない治療法の普及につながるかと期待される。無精子症の男性の中には、精液を遠心分離機にかけると、ごくわずかの精子が見つかることがある。しかし数は少ないため、採取凍結するのは技術的に難しかった。世界保健機関(WHO)によると、正常な人の場合、射精精液中の精子総数の下限基準値は390

0万個という。チームは、無精子症の男性28人の精液からそれぞれ1〜3個の精子を採取。微量の液体を吸い上げる道具「ピペット」の奥に入り込むなどして傷つけることを防ぐため、精子の尾部から吸い上げる工夫をした。精子の凍結保存には、一般的な油脂が主成分のグリセロールではなく、糖の一種のスクロースを用いた。精子の細胞膜へのダメージを考慮すると、少数の精子の保存にはスクロースが適していると判断した。これらの精子を融解した後の生存率は87・1%で、2011年9月〜18年12月に顕微授精により夫婦11組に14人の子どもが生まれた。最長7年の追跡調査では自然妊娠で生まれた子どもと比べて身体、認知機能に問題はないとしている。【岩崎歩】